

研究・調査報告書

報告書番号	担当
359	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）	
Spreading or concentrating drinking occasions--who is most at risk? 飲酒機会の拡散と集中： 誰が最も危険が高いか	
執筆者	
Kuntsche S, Plant ML, Plant MA, Miller P, Gmel G.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Eur Addict Res. 2008;14(2):71-81.	
キーワード	
アルコール、性別、文化、国際研究（GENACIS）、ヨーロッパ、過剰飲酒、集中飲酒、飲酒パターン、問題事象	
要 旨	
<p>目的： 少ない機会に多量に飲酒する者（集中飲酒者）とほぼ毎日一定量の飲酒をする者（拡散飲酒者）では、問題事象の発生が違うのかを明らかにする。またこの関連が多様な文化において同じなのかを明らかにする。</p> <p>方法： ヨーロッパ7ヶ国で実施した一般成人集団での調査から分析する。</p> <p>結果： 多くの国において、問題事象の発生は、飲酒量とは独立して、飲酒機会が多いほど多かった。リスクのある一回のみの飲酒機会が、急性健康事象、法的トラブル、事故、けんかなどのリスクを上昇させた。女性での急性健康事象を除いて、高齢者でも同様の結果であった。高齢者では同じ頻度での飲酒パターンが良好な結果を示したが、若年者では家の外で飲酒していることが問題と考えられた。若年者では頻回の飲酒が急性問題事象を上昇させた。文化的あるいは方法面での多様性を考慮に入れるべきと考えられた。</p> <p>結論： これらの結果の信頼性は、調査の方法の違いによって強められる。</p>	